

2025年（令和七年） 2月28日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

当週（2月20日～26日）の国際石油市場は、相変わらず、トランプ政権の対イラン政策、関税政策の動向に加え、ウクライナ停戦の行方、米国の景気動向、OPECプラスの減産の行方などを要因として、ほぼ日替わりで変動する不安定な動きを示した。

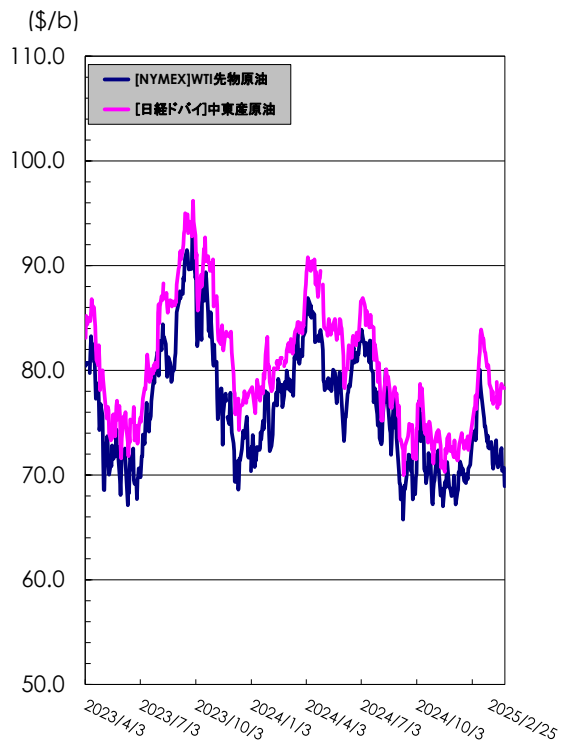
NYのWTI原油先物市場は、20日、3月物納会の終値は3日続伸の72.57ドルで始まったが、21日反落、24日反発、25日は反落して70ドル台割れ、26日は続落の68.62ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（4月渡し）も、前週（2月13日～19日）は76.40～78.40ドルの範囲で推移したが、当週は、2月20日78.70ドル、21日78.40ドル、25日78.30ドル、26日77.90ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（2月13日～19日）151.67～154.51円の範囲で推移したが、当週は、2月20日151.13円、21日149.86円、25日150.23円、26日148.92円だった。

そのような中で、2月25日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も0.1円安、灯油は同1円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は184.3円となった。2月27日～3月5日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、12.5円（補助金がない場合の次週予想価格197.5円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比0.6円の減額となった。

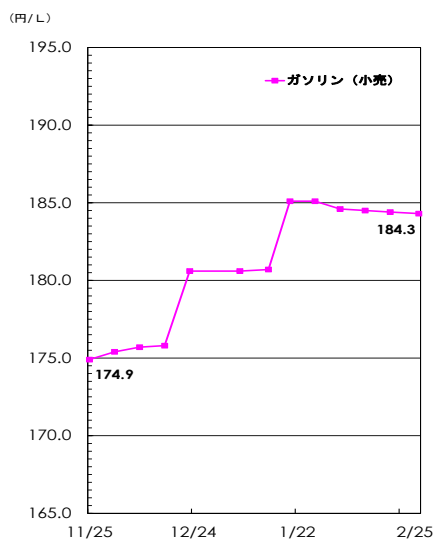
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/16 ~ 2/22	2,653 ▼ -28	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.6 ▼ -0.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	2/22	10,153 ▲ 29	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	2/25	78.30 ▲ 1.50	▼ -2.1
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/24	70.70 ▼ -1.15	▼ -6.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月下旬	76.75 ▲ 0.49	▼ -9.03
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75,987 ▲ 271	▼ -1,723
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	157.39 ▲ 0.45	▼ -13.36
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/25	151.23 ▲ 1.68	▲ 0.13



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	2/22	1,572 ▼ -54	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 2/18 ~ 2/24	86.0 → 0.0	▲ 5.0
価格	(TOCOM/中部)	2/21	88.0 ▲ 4.0	▲ 9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/25	184.3 ▼ -0.1	▲ 9.6

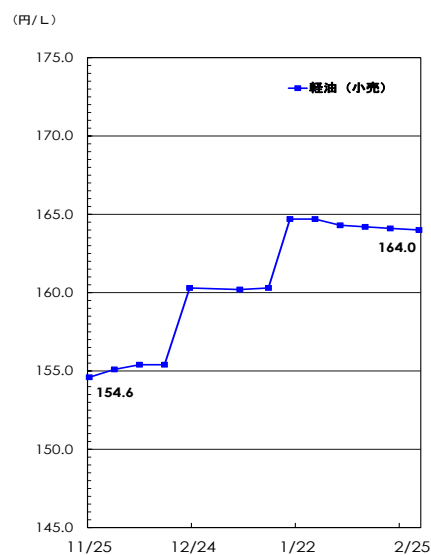
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

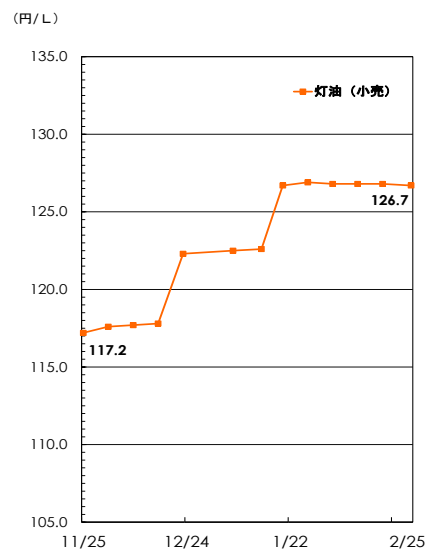
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	2/22	1,266 ▼ -91	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 2/18 ~ 2/24	89.2 ▲ 0.4	▲ 6.8
価格	(TOCOM/中部)	2/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/25	164.0 ▼ -0.1	▲ 9.6

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	2/22	1,573 ▼ -121	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 2/18 ~ 2/24	88.0 → 0.0	▲ 5.5
価格	(TOCOM/中部)	2/21	89.0 ▲ 2.0	▲ 8.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/25	126.7 ▼ -0.1	▲ 9.9



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（2月13日～19日）のNYMEX・WTI先物市場は70.40～72.25ドルの範囲で推移した。

当週、2月20日は、米ロのウクライナ停戦協議が進む中、ロシア南部のパイプラインがドローン攻撃で一時稼働停止し、ロシア側もウクライナの発電所等エネルギー施設へ攻撃、両国の緊張が高まり、また、米国内石油在庫が原油は積み増しとなったものの、ガソリンと中間留分が取り崩され、製品需要の堅調さが意識されたことで、3日続伸した。3月物終値は前日比0.32ドル高の72.57ドル。

週末21日は、米国の景気指数の軟調で、株式市場が低下したこと、また、ロシア南部のパイプラインの稼働が伝えられたことで、供給不安が緩和され、さらには、米国内稼働リグ数の7基増加が発表されたため、大きく反落した。この日から中心限月となった4月物終値は同2.08ドル安の70.40ドル。

週明け24日は、この日、トランプ政権が、イランに対する「最大限の圧力」の一環として、原油輸出関連のトレーダー・タンカー会社を制裁対象に拡大、石油輸出停止の方向を示したこと、また、市場では値ごろ感による買いもあったことから、わずかに反発した。ただ、イラク石油省が、北部イラクのクル

ド自治区からの原油輸出の2年ぶり再開を発表したことは、上値を抑えた。ウクライナ和平をめぐる欧州の反応への様子見ムードも強かった。4月物終値は、0.30ドル高の70.70ドル。

25日は、米・独で相次いで軟調な経済指標の発表があり、トランプ政権の関税政策への不安感と相まって、米欧を中心とする景気悪化・石油需要減少懸念が拡大、また、OPECプラスによる4月からの減産緩和実施の観測、ナイジェリアの増産報告、BPとイラク政府によるキルクーク油田の再開発契約締結など、供給拡大観測から反落、70ドルを割り、昨年12月下旬以来の安値を記録した。4月物終値は同1.77ドル安の68.93ドル。

26日は、米国石油在庫が、原油は前週比取り崩しだったものの、ガソリン・中間留分が同積み増しとなったとの報告、ウクライナ停戦の合意によるロシア原油の供給増加観測、トランプ政権の関税政策への不安などから、続落した。4月物終値は同0.31ドル安の68.62ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による一日遅れの2月20日発表の14日時点の在庫週報は、原油在庫が前週比460万バレル増と市場予想（同380万バレル増）を上回る積み増しであったが、ガソリン在庫は同20万バレル減、中間留分在庫は同210万バレル減と、ともに市場予想（横ばい・160万バレル減）を上回る取り崩しで、需要の堅調さを印象付けた。また、26日発表の21日の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比230万バレル減と市場予想（同260万バレル増）に反する取り崩しであったが、中間留分在庫が同390万バレル増と市場予想（150万バレル減）に反する積み増し、ガソリン在庫も同40万バレル増と市場予想（同80万バレル減）に反して増加した。先週とは一転、製品需要の緩和を感じさせ

た。

EIAによると、2月24日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.3セント安の1ガロン3.125ドル（124.4円/ℓ）と3週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比2.0セント高の1ガロン3.697ドル（147.2円/ℓ）と4週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、2月21日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比7基増の488基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年2月16日～2月22日に休止したトッパー能力は40.3万バレル/日で、前週に対して0.2万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は265.3万klと、前週に比べ2.8万kl減少。前年に対しては11.3万klの減少。トッパー稼働率は76.6%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては0.3ポイントの減少となった。

## 4 国内/製品在庫量

2月22日時点の在庫は、全ての油種で取り崩しとなったガソリンは157.2万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては23.2万kl少ない。

灯油は157.3万kl、前週差12.1万kl減。前年に対しては10.0万kl少ない。

軽油は126.6万kl、前週差9.1万kl減。前年に対しては31.1万kl少ない。

A重油は71.0万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては4.7万kl少ない。

C重油は164.8万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては19.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (2/22)	前週 (2/15)	前週比
ガソリン	1,572	1,626	▼ -54 (-3%)
ジェット燃料	708	722	▼ -14 (-2%)
灯油	1,573	1,694	▼ -121 (-7%)
軽油	1,266	1,357	▼ -91 (-7%)
A重油	710	721	▼ -11 (-2%)
C重油	1,648	1,688	▼ -40 (-2%)
合計	7,477	7,808	▼ -331 (-4.2%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

2月18日～24日のドル建て中東原油価格は前週比値上がり、為替レートの円高が大部分を相殺したが、中東原油の2月の調整金の割引で、元売会社の卸建値は据え置いたものと見られる。ただ、補助金は0.6円減額されるため、2/27からの実質卸価格は値上がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

2月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の184.3円、軽油も同0.1円安の164.0円、灯油は18%ベースで同1円安の2,281円(1%ベースでも0.1円安の126.7円)。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油も4週連続の値下がり、灯油は3週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが14道府県、横ばいが10道府県、値下がりは23都県だった。全国最安値は愛知県の178.0円、その次は岩手県の178.1円であった。他方、最高値は高知県の193.8円。最も値上がりしたのは愛知県(同1.3円高)、最も値下がりしたのは長崎県(同2.2円安)だった。

次回調査時(3/3)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (2/25)	前週 (2/17)	前週比	直近高値
レギュラー	184.3	184.4	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	126.7	126.8	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	164.0	164.1	▼ -0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第46号) の公表は、3/7 (金) 14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。